

# 東京 仕事分け合い健康維持

東京のJR秋葉原駅近くの雑居ビルの5階に、「高齢社」という株式会社がある。ユニークな社名が示す通り、シニア世代専門の人材派遣会社で、東京ガスOBを中心とした登録社員は約1200人、年商は約7億5千万円に達している。

社員のシニアは、即戦力としての適度な責任感と緊張感、そして、充足感も得る日々を過ごしている。



高齢社から派遣された産廃工場のトイレの掃除をする金子浩さん

いう。

自身も東京ガスOBの村関不三夫社長(68)は、高齢社として、人を大事にする「人本主義」を掲げ、原則65歳以上の登録社員(平均年齢72・2歳)には、負荷の大きいフルタイム勤務は勧めない。年金を受け取りながら働くことが前提だ。一つの仕事を数人

「ありがたいの  
声がうれしい」

う金子さん。「これまでは家族のために働いてきたが、今は自分のために余裕を持って働いている」と充実感をにじませる。仕事のやりがいについても、「清掃のプロではないが、きれいになって『ありがとう』と声を掛けてもらえるのがうれしい」と笑顔で話した。高齢社では、シニア世代が重宝される職種も幅広く開拓している。レンタカー営業所の受け付け業務は、朝が早いシニア世代が入ることで正社員の負担が減る。家電の訪問修理車に乗る運転補助は、駐車違反回避に役立っているという。

業界の先駆的な存在として知られる高齢社は2000年、東京ガス子会社の社長だった上田研二さん(故人)が設立した。新築マンションのガス機器の点火確認作業の人手が足りず、定年後に暇を持て余しているOBたちに「働く場と生きがいを提供しよう」と起業したのがスタートだったと

高齢社から派遣されて実際に現場で働く人たち。元東京ガス社員の金子浩さん(68)は、高齢社の派遣社員として千葉県内の産廃処理工場で働き始めて2年ほどになる。週4日間、午前8時半から午後5時前までフロアやトイレの清掃などの業務をこなす。

村関さんは「シニアにとっては、働くことで得られる適度な責任感と緊張感が健康維持の源。今後もシニア世代が働きやすい環境づくりを進めていきたい」と話している。

高年齢の企業理念について説明する村関不三夫社長



高年齢の企業理念について説明する村関不三夫社長

